

去年、我が家の長男にお嫁さんが来てくれて一緒に暮らしています。

毎日の晨朝（朝のお勤め）とお夕事（夕方のお勤め）は、家族5人でお勤めしています。お正信偈を読むのも初めてのお嫁さんですが、日に日に上手にお勤めできるようになりました。

先日「お母さん、お念珠は何のためにあるんですか？」と尋ねられました。朝夕のお勤めの時、念珠をかけて「ナムアマダブツ」と称えている私達の横に居て、素直に疑問を口にしてくれた事をありがたく思いました。

確かに腕輪念珠をアクセサリーとして何個も腕にはめたりするオシャレが若者たちの間で流行っていますし、また、テレビや雑誌の通信販売などで身につけると何かいい事があるとか、健康にいいとか、まるで魔よけの道具やお守りの様に扱っているのを見たり聞いたりします。

いつも念珠を手に阿弥陀様の前に座る私ですが、何のためとか考えたことはありませんでした。私は返事に困ってしまい住職に答えを求めました。

住職は「もともとはインドのお釈迦様以前からあり、念珠の珠を繰りながら何かを称え回数を数えたり、珠を1つ繰ることによって108の煩惱を断つことができる。という意味合いを持っていたようで、その名残が儀式の中に残っていると聞いたことがあるけど、そうした呪術的な道具としては意味付けず、インドで開かれた仏教の伝統として使っているんじゃないかな。浄土真宗としての意味合いを付けるなら、バラバラなものが本当の尊さを求めることでひとつになる。教えという糸でひとつにつながり、バラバラがひとつになる。その糸が切れたらまたバラバラになってしまう。真宗門徒の念珠は“教えを形にしたもの”と受け止めればいいんじゃないかな。損得だけでつながっているのは寂しいからね。」と話してくれました。長男のお嫁さんの素朴な疑問からこんな素敵な朝を過ごすことができました。

これから家族としてより一層深くつながっていくために、本当に大切なことを考えていく問いかけでした。